

特集 MNSCN石巻講座レポート

第2日目 石巻市NPO支援オフィスにて

セッション5 支援センターのマネジメント・事業開発
 コミュニティビジネスについて
 講師：有限会社コラボなっと
 代表取締役社長 石井布紀子さん

セッション6 市民活動基本のキ
 ボランティアについて
 講師：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
 代表理事・常務理事 加藤哲夫さん

セッション7 ニュースレター編集会議
 講師：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
 代表理事・常務理事 加藤哲夫さん

ボランティアについては各人によって定義が微妙に異なります。自発性、無償奉仕、社会貢献、自己啓発などのキーワードは共通性があつたように思われましたが、具体例に照らし合わせると全く異なつた解釈になります。

例えば、「ボランティアで祭の運営委員をしている母親について来て会場のテント設営を手伝っている中学生」。ボランティアであると思う人もいるし、そうではないと思う人もいる。この点に関しては加藤さんから指摘されたように、心（人間の内面）に踏み込んで考えるから、解釈の違いが生じたりボランティアのハードルを高くしてしまつている。

セッション5 レポート
「コミュニティビジネスの仕掛けづくり」

文・高橋 義

坂さんの実際の取り組みには、該当の支援策に応募してはとの石井さんの感想も有りました。

セッション6・7 レポート

研修部会9月報告

文・佐々木万亀夫

このようなクイズ形式の問答のあとに、「ボランティアとNPO」についての講演を頂きました。

セッション7

ニュースレターの作り方のテクニックを教えてください

見出し、リード文をまず考えてから原稿を作る。この後で複数の人に原稿を修正してもらう。

この作業は校正ではなく、文章そのものの意味が分るかどうかの正になります。でも、実際にやってみると案外難しいものですね。

石 井さんは震災後の地域復興活動の中からコミュニティビジネス支援の事業会社を設立されています。

まずビデオ録を鑑賞、その中では町の活性化を目指した富山県の「フリークポケット」の取り組みや、群馬県の「環境ネット21」、栃木県の「ココ・ファーム・ワイナリー」の事例を鑑賞。その後地域資源を活用するコミュニティビジネスとは何かからその発祥・領域・効果・分野と成功要件についても紹介がありました。フリーディスカッションでは石巻地域の現状を検討。萬画を活かした街づくりや、ラジオ石巻等々、これまでのコミュニティビジネスの実際と必要性が話し合われました。行政等からの支援策については国、西宮市、大阪市の例を紹介、新たな事業化を目指す石巻の赤

ま セッション6
 ず初めにクイズ形式で参加者のボランティアについての理解を深めてもらいました。

若葉マークが行く

編集担当仲みちやんの独断コーナー

「あなたの仕事はなんですか??」「株式会社です」
 …そんな答え方はまずない。
 なんの話かと思つちやうでしょ。もちろんNPOの話。
 「NPOって何だかよくわからないです」って今、まさに今、この研修プログラムをひととおり終えたつて時に、あんまりにも直球な、怖いもの知らずの若葉マークの疑問を加藤さんが解いてくれたのです。
 「NPOやってます」っていうのは
 「株式会社やってます」というようなもの。
 株式会社にも様々な業種があり、NPOには様々な分野があるのね…
 「なるほどぞNPO!!」目からウロコどころか魚1匹おちたカンジ。
 加藤さんはまさに「歩く巻物NPO大辞典」と解釈するべし。因

特集 MNSCN石巻講座 レポート

石巻のNPO しっかり研修・じっくり交流プログラム 協働のまちづくり「実践」から学ぶ仕組

9月21日・22日開催

主催：みやぎNPO支援センターネットワーク 助成：日本財団

第1日目

石巻市総合体育館にて

セッション1 NPOの経験から学ぶ

『協働のまちづくり ～つくば市の事例より』

講師：つくばアーバンカーデニング実行委員会 (TUG)
事務局長 井口百合香さん

セッション2 NPOの理論から学ぶ

『実践から学ぶ「協働」の仕組』

講師：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
代表理事・常務理事 加藤哲夫さん

セッション2 レポート

文・久保武士

NPO と行政

『実践から学ぶ

「協働」の仕組』

茨

城県つくば市は5町村が合併した17万人都市であり、中心市街地の活性化と周辺の園芸農業の振興という問題をかかえている。

市長をはじめとする「つくばで生産される花を市民の手で植え、センター地区を美しくして、つくばを訪れる人々に市民の温かい心を伝えたい」という行政の思い「街をきれいにしたい」という市民のボランティア精神を建築やデザインの専門家、企業などの協力により実行委員会という形をとり実現してきた。

ここで活躍している女性庭師は、井口氏が1991年に開催した「女性庭師講座」をきっかけに勉強を続けプロとしての資格や技術を身につけ、街路樹の種類の相談、コミュニティガーデンの運営、高齢者・障害者宅

の庭の管理、非行少年達の労働の場の提供など様々な活動を行っている。

TUGの活動は花だけではなく、築10年を経て黒ずんだ敷石に“つくばおろし”が吹き付けるとい淋しい「つくばセンター広場」に市民手作りのクリスマスツリーを100本飾った。

1998年から続いているこの活動は、本物の大きな樫の木に子供達のアイデアを活かし何ヶ月もかけた手作りのオーナメントを飾り付けるという市民参加の、つくばらしい国際交流

のイベントである。

クリスマスコンサートやクリスマスバザールなど年々盛り上がりを見せている。

井口氏は、実行委員会であることのメリットとして、行政ではできない柔軟さで事業が自由に行える、市の搬出金以外の資金を得られる、

セッション1 レポート

文・山本公恵

女性庭師のいる“みどりのNPO”

街並み・地域の活性化に…

100本のクリスマス・ツリー

淋しいセンター広場に

市民の手作りオーナメントの光

のイベントである。クリスマスコンサートやクリスマスバザールなど年々盛り上がりを見せている。井口氏は、実行委員会であることのメリットとして、行政ではできない柔軟さで事業が自由に行える、市の搬出金以外の資金を得られる、

今

回の研修・交流会は「協働のまちづくり」がメインテーマであった。

「協働」という新しい言葉が出てきたが、NPOで云う「協働」とは「複数の人々や組織が協力をして成果を実現するプロセス（パートナーシップ）」を指すとのこと。

今回は、「協働」について経験と理論の両面から講演があり大変良かった。

その中で理論的な話は、みやぎNPOセンターの加藤哲夫代表理事が、つくば市のTUG(内容別項)の事例などを分析しながら講演された。

つい最近まで日本では公的なことは行政の担当という慣習が支配的であったが、国内外の状況変化(社会の成熟化、少子高齢化、国際競争力の低下、財政難等)で市民の問題意識や価値観が複雑・多様化し行政では対処出来ないことが多くなってきた。このことに行政側も市民側も気がついてきた。

ここに行政と市民との協働が生まれる。市民と協働する行政の姿勢、市民の意識レベルがキーワードである。

7日目に…